

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------------|------------|--------------|
| 事業所番号 | 2276100399 | | |
| 法人名 | 有限会社グループホーム稔りの安らぎ | | |
| 事業所名 | グループホーム稔りの安らぎ (2ユニット共通) | | |
| 所在地 | 掛川市西大淵6803-2 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年 9月 26日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年 11月 17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------------------|
| 評価機関名 | 一般社団法人静岡県介護福祉士会 |
| 所在地 | 静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階 |
| 訪問調査日 | 令和4年 10月 4日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ドライブ、散歩、ちぎり絵などレクリエーションに力を入れている。食事は既製品は使用せず、3食手作りで提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設前は幹線道路が走っており車両が多い。施設裏は一面の畑が広がり遠くに街並みが見える。利用者が買い物等で歩いていくには少し距離のある場所に位置している。管理者はまだ管理業務に赴任して半年しかたっていないが、利用者の立場になり何が一番いい方法か考えながら前に進もうとしている。コロナ禍であり外出は難しいが、近隣への散歩や施設内でできるレクリエーションや壁画作りに力を入れるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎月のミーティングで取り組んでいる。 | 理念である「チームワーク」と「日々の学習」を職員全員で共有できるようにミーティングにおいて確認をしている。利用者には現状が維持できるように、その方にあった支援を行うようになっている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域との交流はできていない。 | コロナ感染拡大になり、地域との交流はできていない。感染の状況を見ながら以前のように地域の方たちに施設へ来てもらったり、地域の行事の参加や家族との交流を考えている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 行っていない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、職員のみで介護についての意見交換や会議を2ヶ月に一度行っている。 | 書面開催ではあるが、現状は職員のみで開催であることから、今後書面においても家族や自治会、行政などから意見や要望が聞けるような方法を取り、改善を図っていきたいとの思いが管理者にある。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | サービス提供事業所連絡会に出席している。 | 支所や区長、民生委員のところには直接パンフレットを届けている。3か月に一回ではあるが、リモートで行っているサービス提供事業所連絡会に参加している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束は行っていない。 | 階段からの転落や交通事故防止のため、玄関や2階からの出入り口は施錠している。身体拘束は行っていない。スピーチロックには職員全員が配慮しながら利用者と接している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待はありません。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|-----------------------------------|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 行っていない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時に利用契約書、重要事項説明書について、ご家族に説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 特に聞く機会は設けていない。 | 改めて聞く機会は設けていないが、利用者との面会時に家族から要望などは聞くようにしている。運営推進会議を行う時の用紙などを活用して、聞く機会を増やしていく事を検討している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月のミーティング時に意見を聞き、運営に反映させている。 | 毎月のミーティング時に意見や要望を聞くようにしている。管理者も現場で一緒にいる為、話やすい雰囲気がある。今のところ職員からの要望は聞かれていないが、意見の食い違いが出ないように管理者は心掛けている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職場環境の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新しい職員には施設長、主任がつき教育を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 事業所連絡会に年4回出席し、意見交換をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|------------------------------------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 困っている事や要望等を聞くようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 近況をこまめに連絡し、面会時には近況報告を必ず行っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 課題分析を行い、必要な介護、支援内容を把握してサービスを行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 利用者に教えていただきながら、支え合う関係を築くようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族が利用者を支えていただけるように、家族への働きかけを行っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 家族や友人が面会に来ていただけるように、お願いしている。 | コロナ禍になってから、週に1~2回面会に来ていた家族もなかなか来られなくなってしまっている。コロナ対策をしっかりと行い、家族や知り合いの方が頻回に来てくれるような、以前のような交流ができるようにしていきたいと思っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 気の合う利用者が、笑顔で話しが出来るようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---------------------------------------|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 利用者や家族から相談があれば、積極的に相談にのっている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | その人なりの生き方に合わせた介護、支援を心掛けている。 | 入居時に年代ごとに生活歴を記入してもらい、支援方針を決めたりすることに役立てている。裁縫の好きな方にはエプロンのほつれた部分を縫っていただいたり、花壇の世話など出来る方は職員と一緒にやっている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に、本人及び家族から、今までの生活歴を聞き、把握するようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | その人なりの価値観、性格等を十分に把握して、介護行うよう心掛けている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画案を作成した段階で本人、家族と話し合いをし、了解を得るようにしている。 | 日誌やミーティングの情報を基に介護支援専門員が立てたプランで家族や本人と話し合いの場を設けている。介護職員がプランを立てる際の話し合いに参加していないことから、今後は介護職員も一緒にプランを立てる方向で検討を行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 状況に変化があれば、その都度介護計画を作成し、職員で共有を図っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個別の状況に合わせた介護、支援及び要求に対応したサービスを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナのため行っていない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 主治医との連絡を密にして定期受診、不定期受診等、状況に応じて家族の協力も得て行っている。 | 主治医とは月2回の訪問診療や急変時の夜間往診も行なっている。他医院や不定期の受診は家族対応で受診している。訪問看護師とは常に連絡が取れる為、医療に関しては安心できる状況である。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護師に相談できている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 主治医及び医療連携室と連携を密にして行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 状況に応じて家族に説明し、医療機関の利用や他施設等への移行について交換を行っている。 | 看取りは行われている。水分が取れなくなり、臥床時間が多くなってきたような時には、主治医と相談のうえ看取りについての話し合いを家族と設けている。 | 入居時の看取りに関する書類はあるが、看取りの際の話し合い時の書類はまだ整備されておらず、今後早急に整備することを期待する。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 職員会議等で確認している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地元消防団及び南遠工芸と、緊急時の支援体制がとれるように防災訓練に参加して災害に備えるようにしている。 | 年2回の法定訓練は行われているが、食事を施設で調理しているため水以外の備蓄は用意されていない。ハザードマップの確認など緊急時の避難に必要なものの準備が不足している。 | ここ数年様々な災害が増えてきている事から、ハザードマップの確認や避難経路の確認、非常持ち出しの備蓄など早急に準備しておくことを期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 本人の尊厳を大切にし、言葉掛けに十分に配慮している。排泄の介助時、人目に触れないよう、トイレや居室の戸を閉めて行うようにしている。 | 排泄時や入浴時には尊厳を傷つけないような言葉かけを行うように配慮している。地元の方言を使ってやんわりとお誘いするように心がける等、上手なコミュニケーションを図っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自己決定を尊重した介護を行っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人の考えや希望を受け入れて、個々のペースに合わせた介護支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 散髪は2ヶ月に1回実施し、出来るだけ本人の希望を取り入れるようにしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者と職員が楽しく食事をする場を提供している。 | 食材は配達してもらっているが、厨房職員がおり補助の職員と共にすべて施設で調理し提供している。利用者にはジャガイモの皮むきやテーブル拭きなど無理のない程度でお手伝いをしていただいている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養、水分補給については出来ている。食事摂取量は毎食記録している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 自立出来ていない人は、排泄の間隔を把握してトイレ誘導を行い、必要に応じて必要な介護を行っている。日中は基本的にトイレでの排泄を行うようになっている。 | トイレの訴えをしていた方の訴えがなくなってきた時などは、今までのトイレ時間などを参考にし誘導を行っている。寝たきりの方以外は全員紙パンツで過ごしている。便秘予防には、水分1000ccを目標に乳製品摂取などで便秘予防を図っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘の人は医師から便秘薬を処方してもらい、排便状況を把握しながら服薬を行っている。予防として野菜を取り入れた食事を提供している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴は2日に1回実施している。排泄で汚れてしまった人には状況に応じて、その都度シャワー浴を行っている。 | 週3回入浴を行っている。自分の手で届くところはご自分で洗身してもらっている。現在は拒否の強い方はいないが、プライバシーや羞恥心に配慮して扉を閉め入浴を楽しんでもらっている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 本人の睡眠パターンに合わせた支援を行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | ゲーム、裁縫、塗り絵、ドリル等の活動を取り入れて、生活内容の充実を図るようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩、日光浴、ドライブを行っている。外出はコロナのため希望通りに出来ないが、必要な時はご家族の協力をお願いしている。 | 玄関前には広いひさしがあり、散歩は週に1～2回ではあるが天気の良い日に外気浴を行っている。以前は近隣にある大型スーパーの食堂などへ外食に出掛けていたが現在はコロナ禍で中止している。今後少しずつ増やしていきたいと考えている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭管理できる人はいないので、お金を持っている利用者はいない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話をかけられる人はいない。家族からかかってきた時、会話ができる人にはお話してもらっている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 外の花壇に花を植え、散歩時に鑑賞してもらい、季節を感じていただいている。 | 花壇で撮影した写真やちぎり絵を活用しスイカやひまわりを製作し、季節が感じられるような展示を工夫している。フロアの一角には置の場所があり、お茶を飲んだり、職員と談笑してくつろぐ時間を作るようにしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 面談室や多目的室を使い、居場所づくりに工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 本人の希望を取り入れ、家族の協力を得て行っている。 | ベッドや引き出し付きのクロゼット、エアコンは施設のものを利用しているが、今まで使用していたテレビや家具、仏壇や家族の写真を飾る方など居心地の良い空間作りとなっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 出来る事は、職員と一緒に行うようにしている。 | | |